



今をかがやく

滋賀県 御池山で出会ったイワウチ

あちこちの山で多くの草花に出合ってきた。2~3000m を超す峰の砂礫に咲く高山植物は、厳しい風雪に何年も耐えた後にやっと咲かせる“高嶺の花”であり、どの花もその環境に打ち勝って得た自信に満ちた姿・形をしているように見えたものだ。

少し低い中腹の雑木林に咲く山野草は、環境の厳しさが高山植物に比べて緩やかな分、なんとなく穏やかさがにじみ出ているように感じとれる。

その多くの草花たちは、まるで長く耐えてきたときを一気に取り戻すように、春から夏には精いっぱい装いをして輝いており、まぶしくいとおしい。

それに比べ、わが人間どもはどうだろう。

花たちのような一年周期の変化はないが、幼少期から成年期の希望に満ちた輝き、熟年時代の実りの輝き、高齢期のいぶし銀の輝きなど、その時々環境・境遇に満たされて輝いてこられた者はしあわせ者なのだろうが、そう多くはないかもしれない。

なかなか一生を通じて輝き通せる人生はないと思うが、確かなことは、人それぞれ誰しもこれからの人生において“今が一番若い時”。その歳に応じた輝きを感じて暮らせれば、幸せな人生だったと言えるのかもしれない。さあしっかり今を輝けるように生きていかねば。いぶし銀でなくてもよい。小じわ・大じわに歩んできた証を刻み、トワイライトに輝かせよう。